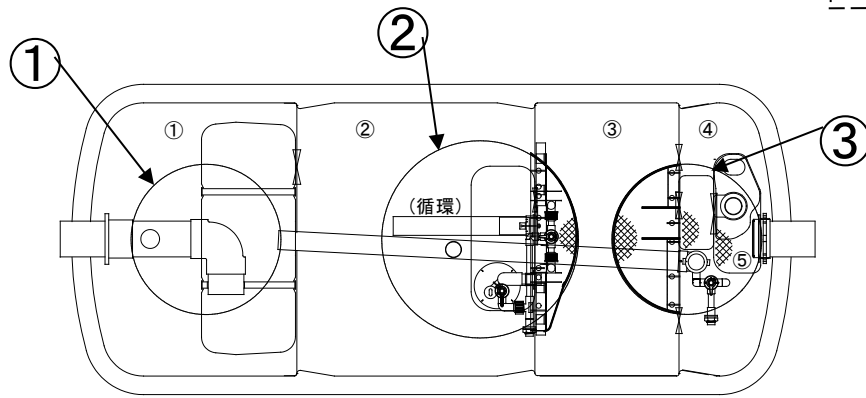
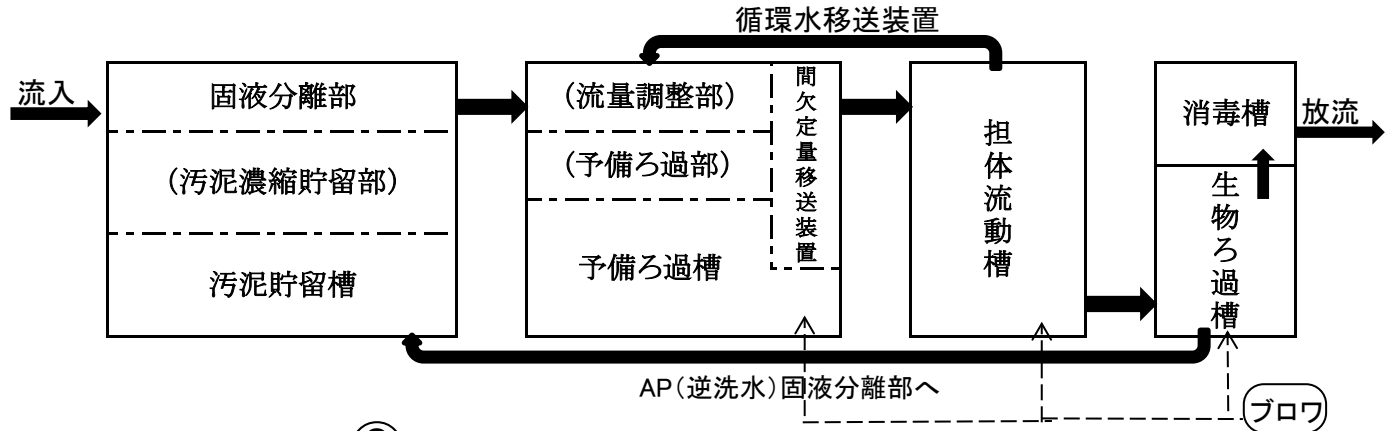
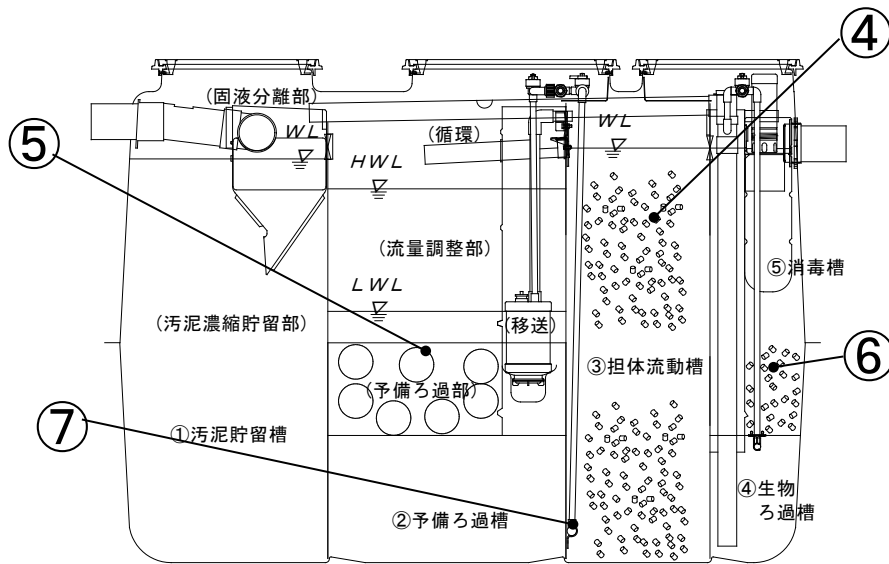


FCS 大栄産業(株) OEM: MCF (株)西原ネオ :DCP(株)ダイキアクス 共同開発: なし 処理方式: 固液分離型流量調整付担体流動生物ろ過循環方式 5・7・10人槽	窒素除去型		全浄協登録値		
	BOD	SS	T-N		
	20mg/L以下	—	20mg/L以下		
	性能評定または性能評価値				
	BOD	SS	T-N		
20mg/L以下	20mg/L以下	20mg/L以下			



- ① 固液分離部/汚泥貯留槽
- ② 予備ろ過槽
- ③ 担体流動槽
- ④ 流動担体
- ⑤ 予備ろ過槽ろ材
- ⑥ ろ過担体
- ⑦ 散気管



有効容量 (m ³)		5人槽	7人槽	7人槽Ⅱ	10人槽
槽名	汚泥貯留槽	0.668	0.937	0.947	1.336
	予備ろ過槽(L. W. L)	0.506	0.695	0.679	1.014
	担体流動槽	0.252	0.351	0.333	0.501
	生物ろ過槽	0.507	0.705	0.700	1.007
	消毒槽	0.285	0.296	0.294	0.445
	合計		2.239	3.005	2.974

流量調整装置	流量調整バルブ目盛	循環装置	循環バルブ目盛	逆洗バルブ目盛	散気バルブ目盛
有	有	有	有	開	開

人槽	ブロウ風量 (ℓ/分)	逆洗風量 (ℓ/分)	逆洗時間 (分)	逆洗時刻	逆洗回数 (回)	逆洗周期
5・7	60	60	5	2:00 4:00	2	1日
10	80	80				

[人槽に対する流量調整 移送水量・循環水量の設定範囲]

人槽	5	7	10
流量調整 移送水量(ℓ/分)	2.8~3.1	3.9~4.4	5.6~6.3
循環水量(ℓ/分)	1.0~1.4	1.5~1.9	2.1~2.8

特 徴

- 固液分離部** 流入汚水中の固形物を分離させる役割をもち、分離した固形物は汚泥貯留槽に貯留される。
- 流量調整部** 時間変動による影響を抑えるため、一時的に汚水を貯留する。すると水量負荷が均一化され、各槽の機能が向上し、安定する。
- 予備ろ過槽** 骨格様球状ろ材を充填しており、固形物の分離と嫌気性微生物の働きによって有機物を嫌気分解し、脱窒により窒素を除去する。
- 担体流動槽** 凹凸小円筒状担体を充填しており、担体内外面に付着した微生物によって汚水中の有機物を分解除去する。
- 生物ろ過槽** 円筒状担体を充填しており、通常のばっ気時にはSSを補足し、逆洗時には補足したSSを解体して汚泥貯留槽に移送する。
- 間欠定量移送装置** 予備ろ過槽の汚水を担体流動槽へ移送する。
- 循環水移送装置** 脱窒のための循環と担体流動槽内のSSを移送する。

作業時のポイント

保守点検

- ①ブロウのタイマー設定(現在時刻、開始時刻、終了時刻)を必ず確認してください。
- ②固液分離部の固形物の付着状況や閉塞がないか確認してください。
- ③間欠定量移送装置の移送水量は、吐出サイクル(回/分)及び吐出水量(ℓ/回)から算出してください。調整はバルブ(灰)で行ってください。
- ④担体流動槽のばっ気状態、気泡の均一な上昇、担体の流動状況を確認してください。生物ろ過槽への移流口へのスリットを洗浄してください。
- ⑤循環水量を上表の水量になるよう実測して確認してください。調整は流入口の開度で調整してください。
- ⑥ブロウの点検ボタンを押して逆洗を行い、逆洗移送水量の確認(上表参照)を行ってください。逆洗移送水量の標準的な目安は、6~12(ℓ/分)です。

清掃

- ①初めにブロウの点検ボタンを押して生物ろ過槽の逆洗を行ってください。
- ②汚泥貯留槽の汚泥・スカム等は、全量引き抜いてください。予備ろ過槽は適正量としてください。